

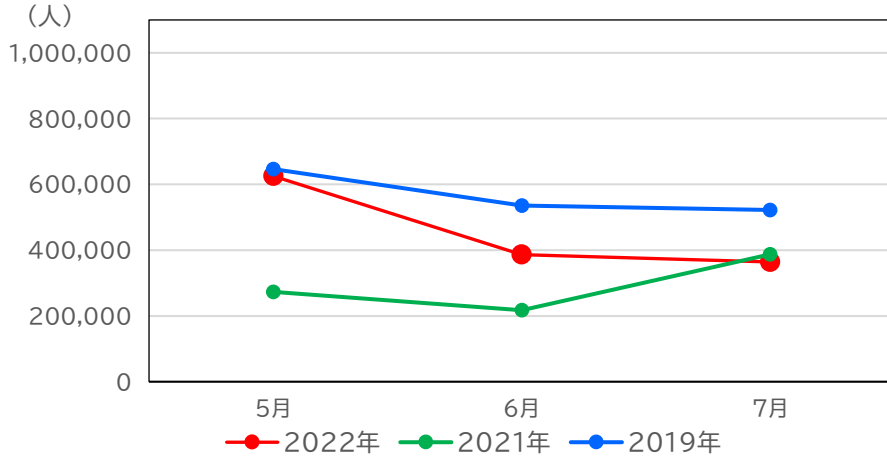
大分県観光予報観光動向レポート 6月号

対象都市	大分県	集計対象期間	2022年5月～2022年7月（3か月間）
比較対象都市	福岡県・長崎県・熊本県	比較対象年度	2021年（前年）、2019年（コロナ前）

大分県の宿泊動向

■宿泊者数の推移

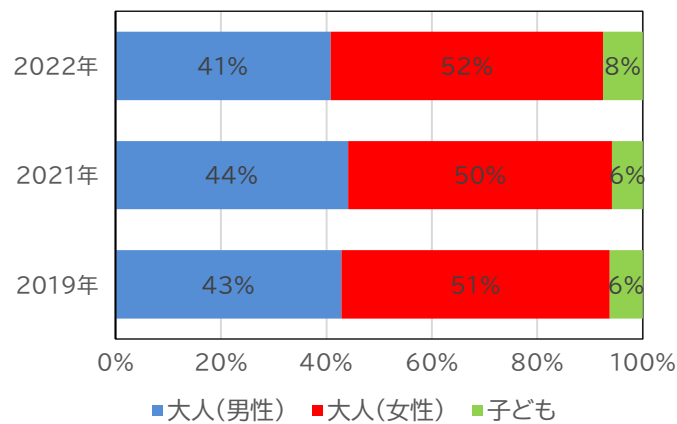
[2022年5月～7月の宿泊者数（大分県 実績・予測）]



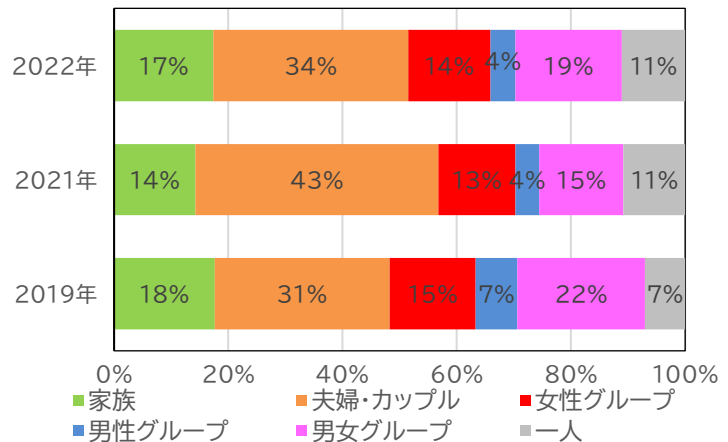
6月宿泊実績：386,565人
 （5月時点6月予測：364,805人）
 7月宿泊予測：364,027人
 （5月時点7月予測：106,924人）
 前年比（6月）
 78% 増
 2019年比（6月）※コロナ前

■宿泊者属性の動向

[大人・小人の別（6月）]



[同伴形態の別（6月）]

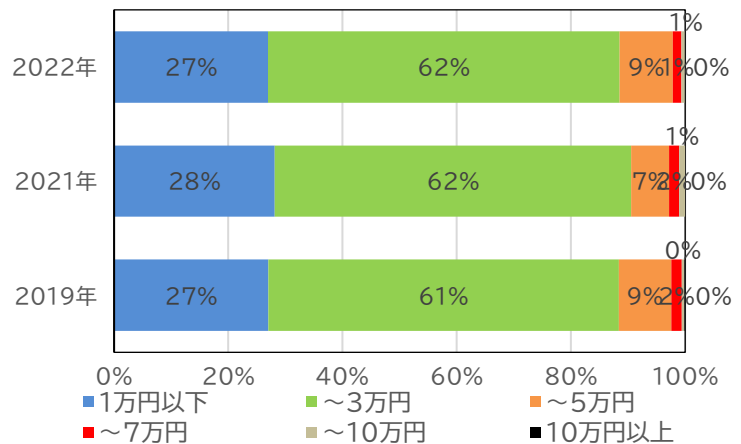


[当期宿泊者の居住地ランキング（6月）]

※海外はデータ数小により非表示

国内	1位	福岡県	118,235	31%	6位	山口県	13,547	4%
	2位	大分県	80,076	21%	7位	宮崎県	12,751	3%
	3位	東京都	20,659	5%	8位	神奈川県	11,001	3%
	4位	熊本県	17,623	5%	9位	愛知県	9,378	2%
	5位	大阪府	15,395	4%	10位	長崎県	9,060	2%

[一人あたり宿泊購入額（6月）]



[市町村別の宿泊者数ランキング（6月）]

市町村名	宿泊者数	市町村名	宿泊者数
1 別府市	178,118	10 国東市	704
2 由布市	106,814	11 豊後高田市	249
3 大分市	47,234	12 宇佐市	239
4 日田市	16,614	13 豊後大野市	126
5 日出町	11,015	14 臼杵市	113
6 竹田市	10,561	15 津久見市	22
7 九重町	8,458	16 杵築市	-
8 中津市	4,879	17 姫島村	-
9 佐伯市	1,419	18 玖珠町	-

考察

【大分県の宿泊動向】

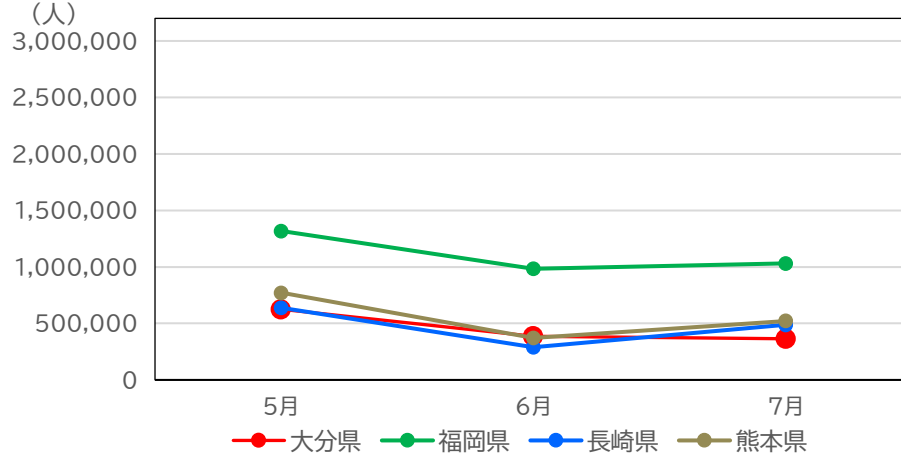
- ・2022年6月の宿泊者数は、5月に引き続き行動制限がなかったことや旅割の継続などが影響して前年比78%増加したが、コロナ前の2019年比は-28%にとどまった。
- ・宿泊者の属性に関してはコロナ前後で大きな差は見られず、前年に比べ子連れや家族、男女グループなどの旅行が増えている。
- ・大分県宿泊者の居住地としては、福岡県在住者が31%を占め、福岡県・大分県の在住者が約半数を占めている。

※2022年6月以降の数値は現在の予約状況及び過去の動向を踏まえた推計値です。予約数の増減に応じて随時値は変化します。
また、2022年の実績値についてはキャンセル値を随時反映しているため、数値が変化する可能性があります。

比較対象都市との比較（5月～7月の宿泊動向）

■宿泊者数の推移の比較

[2022年5月～7月の宿泊動向（隣県比較）]



【各県前年比（6月）】

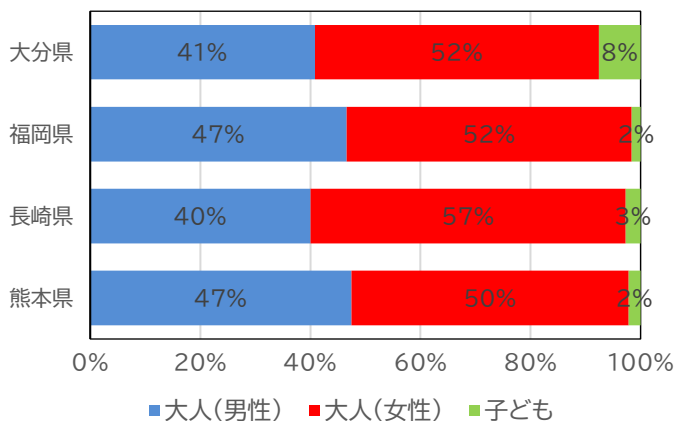
大分県：78% 増
福岡県：83% 増
長崎県：19% 増
熊本県：37% 増

【各県2019年比（6月）】

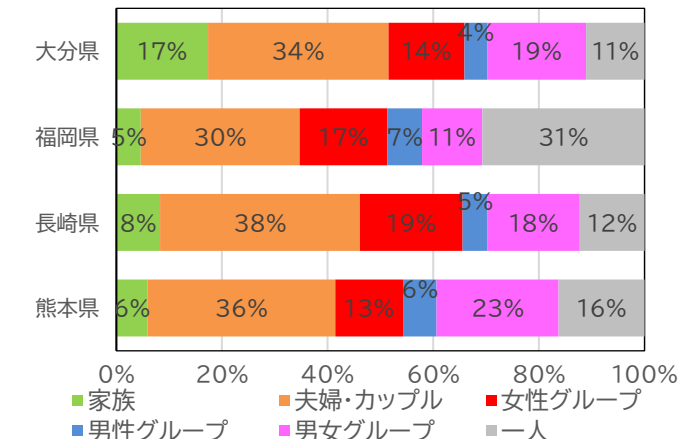
大分県：-28% 減
福岡県：-27% 減
長崎県：-44% 減
熊本県：-33% 増

■宿泊者属性の動向比較

[大人・小人の別（6月計）]



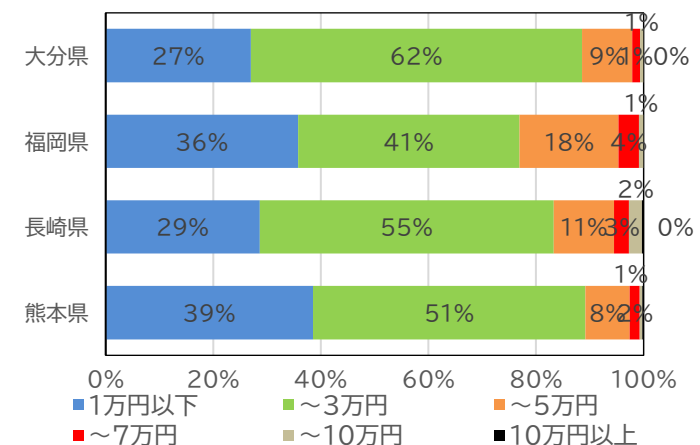
[同伴形態の別（6月計）]



[各県宿泊者の居住地ランキング（6月計）]

順位	大分県		福岡県	
	県	人数	県	人数
1位	福岡県	118,235	東京都	119,804
2位	大分県	80,076	福岡県	112,850
3位	東京都	20,659	神奈川県	94,626
4位	熊本県	17,623	大阪府	70,647
5位	大阪府	15,395	鹿児島県	53,406
長崎県		熊本県		
1位	福岡県	45,992	福岡県	71,046
2位	東京都	33,388	熊本県	57,809
3位	長崎県	28,531	東京都	28,468
4位	神奈川県	25,583	鹿児島県	26,163
5位	大阪府	22,330	大阪府	21,893

[一人あたり宿泊購入額（6月）]



考察

【比較対象都市の動向】

- ・比較対象都市の宿泊者数の動向としては、大分県と福岡県は6月は前年比でそれぞれ78%、83%増、コロナ禍前の2019年比も他2件と比べ比較的減少率が低くなっている。一方、比較都市3県は7月は6月に比べ増加する予測となっているが、大分県は他県と比べ7月の宿泊予測が低くなっている。
- ・宿泊者の属性をみると、福岡県は一人での宿泊や1万円以下の予約が多くビジネス客等の需要が多いと考えられる。
- ・大分県は、子どもや家族の割合が他県に比べ高くなっており、子連れの家族層に多く選ばれている傾向が伺える。
- ・各県宿泊者の居住地をみると、大分県は他県と比較しても特に福岡県からの宿泊者が多く、自県への宿泊者割合も高くなっている。大分県は福岡県、大分県からの宿泊者が半数を占めているのに対し、そのほかの都道府県からの宿泊者は他県に比べ少ないことがわかる。